

「和の住まい」シンポジウム開催

「木の家は高い」を払拭

山とまち、自然と人を結ぶ木の家にあたりまえに住むには？をテーマに、「和の住まい」推進リレーシンポジウムin飯能」が2月3日、飯能信用金庫本店9階のはんしんホールで開催される。林業家、製材業者、施工業者、建築家、市などが連携し検討を進めている「飯能型気候風土適応住宅」の基準作りの意義について、多くの市民に考えてもらえるきっかけにもなればと、関係者らが企画。主催は、埼玉の木づかい運動

実行委員会、飯能型気候風土適応住宅推進協議会が共催。和の住まい推進関係省庁連絡会議など9団体が協力し、県、市、(二社)県木材協会、飯能商工会議所、文化新聞社、飯能日高テレビが後援。

「木のまち飯能」には、和風住宅建設に向く西川材が豊富にあり、西川材と飯能の気候を知り尽くした大工も地元が多い。伝統的和風住宅に憧れる市民も多いが、「いいなあ、けど、和風住宅は高くて手が届かない」という先入観から諦めてしまう人が少なくない。

このシンポジウムでは、木の家を建て住んでいる人、実際の建設費まで質問し、「木の家は高額」という思い込みを払しょくし、「和の住まい」の良さを再認識してもらおう催し。

主催・共催者は、「家の新築や改修を考えている」「飯能だからできる家づくりを知りたい」「木の家で子育てしたい」「地域材を使った住宅を供給したい」人な

子ども向け木の遊具も

どの来場を期待している。

午前10時、8階で子どもを対象にした、木組みのジャングルジム「くむんだー」で遊ぶ催しで開幕。

くむんだーは、木槌1本で組み立て可能で、木と木を組み合わせて造っていく伝統工法を遊びながら学べる遊具。無垢の木を使い、京の清水寺と同じ構造のジャングルジムは、駿河台大学の学園祭「駿輝祭」などに度々登場し、子どもたちの人気を集めている。当日は、大小2組のジムが用意

され、午後1時から2回目のワークショップが行われる。無料、事前予約不要。

シンポは午後1時開会。1時15分から、国土交通省林野庁、観光庁の担当官が、「和の住まいのすすめ」について講演する。2時からの休憩中、くむんだーに用いられている日本の伝統建築などについて解説が行われる。2時半、対話型座談会「どうしたら、普段に木の家に住めるか」が開会。

木の家を建て住んでいる体験者と、地元の専門家4人を中心に、参加者の質問もどんどん受け付ける全員参加型催し。

体験者は、無垢の西川材を使用し準防火地域に適合した真壁の和風住宅を建築

した豊島区の横田裕司さん、準自家建築で土壁の家を建設した名栗の下田亘さん、各々の専門業者に分離発注(直営工事)という形で木の家を建設した坂戸市在住の宮崎恭行・香織夫妻。

地元の専門家は、井上淳治さん(林業)、小峰康夫さん(製材)、古谷勝さん(施工)、吉野勲さん(設計)。コーディネーターは、職人がつくる木の家ネットの地域会「木の家ネット・埼玉」の綾部孝司さんが務める。

4時半閉会。

参加費無料。要予約で31日締切だが、定員(150人)に達し次第締め切る。

また、無料で一時保育も実施し事前予約不要。

問合せは吉野さん(電話番号090・3080・4183)。

電子メールh.wanosumai@gmail.com。FAX(042・973・8075)による参加予約も可能。